



天平のひろば

NPO法人平城宮跡サポートネットワーク（NPO平城宮跡）

〒630-8577 奈良市二条町 2-9-1 奈良文化財研究所内

2024 年 10 月発行

92 号

☎/Fax 0742-34-7713

e-mail npoheijyou@yahoo.co.jp

http://www.heijyonet.nara.jp

東楼鋳金具の復原研究説明会

7 月 19 日 NPO 平城宮跡は第一次大極殿院復原事業情報館で、奈文研神谷友理子アソシエイトフェロー（文化遺産部建造物遺構研究室）が「平城宮第一次大極殿院古代技法による東楼垂木口金具製作」の説明会を 3 回（出席者 37 名）開催。西田紀子上席研究員、飛鳥歴史公園事務所平城分室田中元洋課長が陪席、参加者から、東楼木口金具の意匠の復原や金アマルガム鍍金などの質問がありました。

奈文研は国交省国営飛鳥歴史公園事務所からの受託により、平城宮第一次大極殿院の復原研究を 2010 年に開始。以降、2014 年より建築金具の復原研究を開始しました。第一次大極殿院地区の発掘調査では、金具がほとんど出土していません。そのため、文献史料や出土品の検討、化学分析、復原品の製作実験等、様々な手法を用いて金具の復原研究を行いました。特に大きな研究成果は、「古代における純銅製の鋳造金具への鍍金（金を用いたメッキ）事例を確認」したことです。主に大官大寺の隅木木口金具の化学分析によって判明しました。純銅は銅湯が流れにくく、青銅よりも鋳造が難しい材料です。そこで古代の純銅製金具の製作技法の解明も課題となりました。その中で、さまざまな実験を繰り返して、古代技法を忠実に再現した製作技法を見出したということも今回の大きな成果で、鋳型や銅湯温度の検討を重ね、2023 年度に「純銅製金具の安定的な鋳造を実現」することができました。

今年度（2024 年度）は 10 年におよぶ建築金具の復原研究の集大成として、金具の鍍金を行っています。この鍍金工程においても、純銅製金具に対して安定的な製作技法を確立することができました。

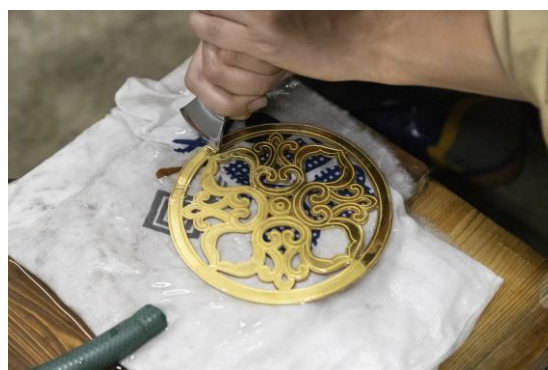
古代技法の復原の大きな指針になったのは「正倉院文書（762 年）」です。金アマルガム（水銀と金で構成される合金）の配合比（1 対 5）、金アマルガムから水銀をを絞りだす工程の存在が確認できます。



復原事業情報館で「東楼鋳金具」の説明

今回の復原研究においてはさらに、現代に伝わるアマルガム鍍金の技法を再検討し、特に金具を硝酸水銀につける工程に着目しました。

古代にはない硝酸水銀を使用せず、梅酢でのぼしながら、直接金具に水銀を塗布する工程に代替したところ、安定的な純銅製金具の鍍金に成功しました。古代技法による金具製作を実施したのは、平城宮跡内の復原建物では初めてのことです。（編集部）



鍍金工程の仕上げ・ヘラ磨き

みやと通をきれいにしよう

7 月 24 日 いざない館で「平城宮跡安全・安心連絡協議会（13 団体）」を開催しました。

2 年後に植樹祭を迎えますが世界遺産平城宮跡は近鉄線が朱雀門の北を横断、第一次大極殿と第二次大極殿は、みやと通が東西に分断しています。

NPO 平城宮跡は歴史公園の特別史跡を“市民の力”で世界文化遺産の“みやと通をきれいにしよう”と提案、会議の前に参加者（15 名）は朱雀門から現地までパトロールを行いました。（環境保全部会）



10月12日第51回平城宮跡歴史文化講座が平城宮跡資料館講堂で117名の参加で行われ「律令を読むー「名例（みょうれい）律と律令官人の犯罪」と題し講演。

日本の「律」で条文が残存するのは、757年施行された養老律令が最初で、養老律は12の篇目のうち全体の1/4程度の写本が残っている。

養老律は唐律を準じたと見られるので、内容は推定でき、篇目の第一番目が「名例律」で前半が残っており、刑罰の名称と律全体の通則を定めている。

以下、衛禁律、職制律、賊盜律、闘訟律など一部または全部が残り、様々な犯罪についての罰則や手続きを定め、官人の犯罪も多く記されている。

名例律では、まず、①笞罪（むち打ち）、②杖罪（杖で打つ）、③徒罪（懲役）、④流罪、⑤死罪、の刑罰（五罪）の名称・程度と、錢を納めれば実刑が免除される「贖銅」の重量が定められている。次に、特に重い支配秩序を揺るがす八つの罪（八虐＝謀反、謀大逆など）の分類と定義が記され、さらに身分や功績などによる刑の減免の特別措置（六義）が規定されている。官人には官職・位階を剥奪して刑が減免されるなどの特典もあった（その例外規定もあった）。また天皇の判断で律の規定を変更することも想定されている。

続いて、裁判ないし量刑の基準についての規定があり、最後に律の中で使われる術語の定義が記されている。

720年に起こった漆部司の四等官、従八位上、丈部路忌寸石勝（以下 石勝）による漆の盜難事件の例を、律の適用の様子を中心に見てみよう。①石勝は自分の管轄の役所の漆を大量に盗む。②国家の財産侵奪として、賊盜律が適用された。③盗んだ量も多く流罪最高刑の遠流3年、労役付の刑となる。また管轄の役所の物を盗んだので臨盜となり、官位の

剥奪も付加されたか。④この量刑だと贖銅の対象外で八位以上の官人の特権による刑の減免も不適用。

石勝の子供3人が、自分たちを良民から、賤民の身分に落とす事と引き換えに、石勝の刑の免除を申し出る。⑤天皇の判断で、父を思う孝敬の情には理があるとして、律の規定にはよらず、子供を賤民に落とし、石勝の罪を免じた。さらに翌月には子供たちは良民の身分に戻された。

内容が複雑な面もあったかも知れないが、奈良時代の「律」の世界の一端に触れていただけたと思う。

(編集部)

平城宮跡歴史文化講座(次回)

1月18日 市 大樹(大阪大学大学院人文学研究科教授)「律令を読むー古代の交易活動はどのようなものであったのかー」

好評 平城京 歴史講座

柴原聡一郎さん(奈良市埋蔵文化財調査センター)が、7月13日167名を前に「富雄丸山古墳と佐紀の王陵」と題し講演。



4世紀は倭国に関する文献資料が少なく謎の多い時代で同時代の古墳として、馬見古墳群、佐紀古墳群があるが富雄丸山古墳は独立した古墳である。最近は航空レーザ測量でも解明が進められてきている。

富雄丸山古墳の発掘調査は、2017年度から埋葬施設と推定された造り出しを中心に始めた。2022年度には被葬者を納めた木棺を覆う粘土槨の中から蛇行剣と鼉龍文(だりゅうもん)盾形銅鏡の2つの国宝級大発見があった。

蛇行剣は全長237cmで古代東アジア最大の剣で、形状や長さから武器ではなく飾りだと推定される。鼉龍文盾形銅鏡は国内最大の鏡で、中国鏡の神獣像を模倣した図像である鼉龍文2面分が描かれている。2023年度調査では木棺の蓋を開け副葬品の調査をした。割竹形木棺で両端に縄掛突起が8本、内部は3分割され主室の頭部には水銀朱、足元に9本の堅櫛、副室から3面の鏡が出土した。数年後に展示施設建設が予定されている。(編集部)

阪口由佳さん（奈良県立万葉文化館主任研究員）が、8月10日129名を前に「古事記における風と雲」と題し講演。



万葉集最後の大神家持歌の雪は正に吉事で、天武天皇と藤原夫人の相聞歌は雪を瑞祥として喜びたわむれ合っている。また梅花の宴の歌群のように梅ととり合わせて詠まれもした。風の特異な例としては明日香風、佐保風のように地名＋風として固有名詞のように用いられている。

古事記では雪は上巻にだけ用例があり、神話として描かれ沫雪などの表現はあっても実際に降る場面はないようだ。風は上巻と中巻にだけ用例はあるが、神とのつながりで何かを脅かすものとして詠まれている。雲は上巻では「八雲立つ」のように沢山の雲がわき立って生命力が盛んになりめでたい兆しとして詠まれ、中巻の神武天皇条では良くない事が起こる予兆として描かれ景行天皇条では倭建命の辞世の歌の一首で意識がぼやけてきたことを雲で表している。雲が効果的に使われているのが印象的である。雨は中巻では倭建命が大氷雨を神に零されて苦しんだ様子が描かれているのに対し、下巻では神が降らせた雨ではなく、天皇の徳による雨となっている。（編集部）

福山博章さん（京都府埋蔵文化財調査研究センター主任）が9月14日147名を前に「井手寺と古代の都-橘氏と南山城の遺跡-」と題し講演



南山城は多くの官道と木津川で、奈良時代は交通の要であった。瓦窯、須恵器窯や銭司遺跡があり工業地帯で栄え、豪族の氏寺も多く存在した。これらを取り入れて造られたのが恭仁京である。

短期間の都であったが聖武天皇にとって国分寺や大仏建立の詔や墾田永代私財法など重要な時代であり、それを支えたのが、橘諸兄であった。

恭仁京は朱雀大路がなく鹿背山を挟み左京、右京が造られたと思われる。南山城北部は橘氏の先祖にあたる栗隈氏が支配していた土地であり橘諸兄の

経済的基盤となった。恭仁宮はその後山城国分寺になった。井手寺跡は、2001年から発掘調査が行われた。発掘された瓦から造営開始は平城遷都後745年以降ではないかと思われる。

平城京、恭仁宮、平安京と同範の瓦から中央政権と深い関係が伺える。井手寺東側の寺域外から塔跡が確認された。塔の創建は心礎跡から発掘された硬貨によって818年から835年で文字瓦から平安時代に修理されたが老朽化により倒壊したと考えられる。（編集部）

鶴 真美さん（正倉院事務所保存科学室員）が10月12日132名を前に「正倉院宝物の材料とその国際性」と題し講演。



正倉院宝物の材料は多種多様で、国外の物や由来のわからない物も多くある。石材では、軟玉、ラピスラズリ、トルコ石などが確実に外国産である。玉長坏は

軟玉で作られ白く柔らかい器で唐からの舶来品。円鏡平螺鈿背には、鮮やかな青色でアフガニスタンが主な産地のラピスラズリと少し緑がかったトルコ石が使われ、唐で製作されたようだ。青色の彩色材料としては、東アジア由来の藍銅鉾や国産のツクサが用いられている。国産材料としては他にヒスイや水晶、メノウなどがある。

ガラスの器類は国外製で、白瑠璃碗や瑠璃杯はササン朝ペルシャからもたらされたもの。装飾類は材料の一部は外国産でも国内製作で、帯に下げた魚形のガラス製品は、配色も良く銅や鉄の配合によって色合いが違っている。ガラス玉製品には雑玉幡残欠があり、唐から伝わった暈縹技法により唐から伝わった暈縹技法により見事に配色されている。（編集部）

次回の平城京 歴史講座（いざない館）

11月9日：青木章二（NP0平城宮跡会員）

「やまとの方言」

関西弁？奈良弁？大和弁？大和言葉？

12月14日：柳澤秋介（飛鳥歴史公園事務所所長）

「飛鳥地方と国営飛鳥歴史公園」

いいだ
飯田 ゆりあ

企画調整部写真室主任



1987 年東京都生まれ。
2010 年日本大学芸術学部
写真学科卒業、2012 年同
大学院修士修了、動物写
真家の下で仕事をした後、
2014 年 1 月奈文研藤原地

区写真室に採用され、平城地区写真室に異動、2021 年 4 月現在に至っています。

写真室では、研究所の文化財調査に必要な不可欠な写真記録について、デジタル撮影・記録の管理や保存を担当しています。その役割は対象の情報を詳細に記録し、かつその記録を後世まで活用できるように保存していくことで、例えば土の中から発掘される遺物のなかには、取り上げた時点で原形を保っていたものが時間とともに変色変形し、最悪の場合、出土品が失われてしまうことがあります。また発掘調査が終了すれば遺構は埋め戻され、二度と見る事が出来ない場合が多く、写真が調査結果を検討し成果を明らかにする重要な手段となります。

そのためにあらゆる角度や高さの選択肢から、最適な撮影アングルを選び、文化財の情報を自然な形で引き出して記録します。またドローン撮影を使用せず遺跡の高所撮影の多くは、組み立て式の足場から撮影します。このほか 15m・20m クラスの高所作業車を使用したり、ヘリコプターからの航空撮影なども行います。

文化財カメラマンの仕事は、重い機材を扱うので体力も大事です。

飯田さんは、採用当初から野外の風景写真を撮るのが好きで、これまでの知識と技術を活かし、今は何でも撮り続けたいと意欲満々です。

佐伯門の南、NP0 平城宮跡事務所の北側に写真室があり、外部からの研修者も多いと聞いています。

最後に、平城宮跡資料館やいざない館の来訪者の質問に適切な対応で説明するガイド活動は大切で、なくては困ると絶賛をいただきました。（編集部）

平城宮跡を“楽しむ”人たち

桜見守り隊(パトロール)害虫フラスを発見！

炎天下、桜見守り隊がパトロール中、内裏の南、第二次大極殿基壇の東西の桜に害虫フラスを発見、被害状況を奈良県経由で文化庁に報告しました。

桜を害虫から護るため、樹幹に薬剤注入するそうですが、天平の薨の眺望も美しい景観を残して欲しいと市民は切望しています。（緑の保全部会）



都跡ふれあいまつり（かりうち）を実施

9 月 28 日都跡小学校で地域のお祭り「都跡ふれあいまつり（かりうち）」を開催。子供たち 80 人が対戦、中には 5 回もチャレンジする人もいて其々がゲームなどを楽しんでいました。（文化・ガイド部会）



新規会員の紹介/募集

新規会員の紹介（10 月 1 日現在）

武田美代子さんが入会しました。

新規会員の募集

〈活動の支援/入会のお申し込み〉

❖個人が支援/活動 年会費 3,000 円

❖法人が支援/活動 年会費 10,000 円

◆お申込みなど : ☎ 0742-34-7713

編集後記

今夏の異常な猛暑から、ようやく平城宮跡に秋の気配が感じられる行楽シーズンとなりました。銀色に輝くオギと復原建物をみながら、平城宮の秋を是非お楽しみください。（Y. S）